

S-RED 通信

社会・地域創発本部 Society-Region Emergence Department

岩見沢で 2 大イベントが同時開催！（11/5）

emmy fes 0.9 in 岩見沢

北大 COI-NEXT ところとカラダのライフデザイン共創拠点（以下、拠点）主催の『emmy fes 0.9 in 岩見沢』が、11/5（土）に北海道教育大学岩見沢校で開催され、延べ入場者数は約 950 人と大いににぎわいました。同校で 開催された『あそびプロジェクト vol.14』とのタイアップ企画として実施された今回のフェスでは、北大の学生サークルや拠点の参画機関とともに、岩見沢校の特徴であるスポーツと芸術を軸にしたプログラムを提供しました。

3 人制プロバスケットボールリーグ「3x3.EXE PREMIER」に参入している HOKKAIDO IWAMIZAWA FU の提供で、DJ ブースによる音楽と MC による新感覚のエキシビジョンマッチを開催。スペシャルゲストライブでは、北海道の市区町村や特産品をテーマにした楽曲をつくっているハンバーガーボーイズと、HBC 北海道放送の波多野裕太アナウンサーが、ライブパフォーマンスや地域にまつわるトークで会場を盛り上げました。北大からは 2 つの学生サークルが参加し、自分の内面や健康を見つめなおすことをテーマにしたカフェや、フィンランド発祥のスポーツ「モルック」を体験するコーナーを出展しました。そのほか、参画機関出展のブース、VR による岩見沢市の上空 100m での鉄骨渡りや大ジャンプなど、来場者は多彩なプログラムを楽しんでいました。



あそびプロジェクト vol.14

拠点は今回が初参加。家や地元の面白おかしい習慣・伝承を書きこむ「みんなの家宝絵巻」、親子でつくる「絵本ワークショップ」、自分の推し本と誰かの推し本を交換する「シークレット本棚」など、様々な年代で楽しめるプログラムを提供しました。

拠点では今後も、健康で笑顔あふれる幸せな生活や、若者が自分らしく幸せに生きる社会、誰もが活躍できる社会を実現するための取り組みの一環として、「若者がひととともに、自分らしく生きること」をテーマにした emmy fes を開催します。次回は来年 3/18（土）に、小樽市での開催を予定しています。



デジタルを活用した、拠点での新たなコミュニケーションの取り組み

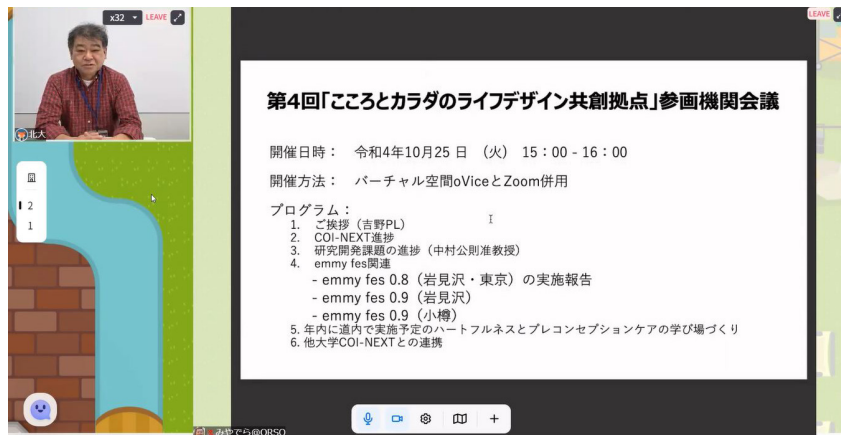
株式会社 ORSO 執行役員の宮寺伸明氏は、岩見沢市の行政サービスとして定着している『家族健康手帳』を含む 5 本のアプリを開発するなど、北大 COI プロジェクトでは、デジタルを活用する分野で活躍してきました。その経験を活かし、拠点ではチーフデジタルオフィサーとして、引き続きデジタル分野に携わっています。宮寺氏に、今後のプロジェクトの運営について伺いました。

「場」を大切にして、コミュニケーションの質を高める

宮寺氏は、北大 COI では多くの成果が収められた要因を、「みんなで楽しく、和気藹々とプロジェクトを進められたこと」と分析し、拠点でも、「みんなが自発的に参加したくなる場づくりが重要」と考えています。S-RED の日常業務に欠かせないオンラインチャットツール Slack も、その一環として導入されました。工夫したのは、業務以外で面白いと思った情報や、心のつづやきなどを投稿できる雑談チャンネルも併設したことです。これによって、仕事だけではわからない同僚の人となりがわかる仕組みをつくり、スタッフ同士の距離感をぐっと縮めました。COI&NEXT リーダー会議メンバーのチャンネルも開設されていて、意見交換の場となってきました。

実際に体験することを重視

今大変注目を集めている、メタバースや Web3 といった、次世代型インターネット。それらはまだ新しい概念であり、定義や方向性が固まるのはこれからですが、今後の拠点でのプロジェクトの運営や、新規プロジェクトの内容にも影響すると予想されます。そこで宮寺氏が重視しているのが、「体験」です。様々なユーザーにとって使いやすい・使いたくなるサービスも、実際に体験しないことには、その良さや使いこなし方が分かりません。第 1 段階として、oVice と Zoom を併用した参画機関会議を 10 月 25 日に開催しました。新しく変化しているコミュニケーションのあり方に慣れていく取り組みを、今後も継続的に行っていく予定です。皆様、どうぞお楽しみに！



宮寺 伸明

北大 COI-NEXT こころとカラダのライフデザイン共創拠点
チーフデジタルオフィサー
北大 産学連携研究員 / 株式会社 ORSO 執行役員

VOICE

北大 COI から 6 年もやっていると、思いもよらぬところで知り合いと知り合いが繋がっていたという楽しい驚きによく遭遇します。「デジタル化」というと、「紙でのやりとりを電子化する」というイメージがあるかもしれませんが、「効率化」だけを追求するのではなく、人のぬくもりや感情といった残したいところは残し、時間や空間を飛び越えられるデジタルの利便性をうまく取り入れて、新しいコミュニケーションで、まだ出会っていない、出会うべき人たちを繋いでいけたらと思います。不便も便利も楽しんで、自分らしく幸せに！

今後のイベント（予定）

12/2 ~ 4 ハートフルネスワークショップ
（講師：スティーヴン・マーフィ重松氏）

12/12 第 2 回北海道創発会議

12/27（予定）第 5 回参画機関会議

2023/03/18 emmy fes0.9 in 小樽

S-RED 通信バックナンバー

S-RED通信

